

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立松伏高等学校)

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
--------	---

重点目標	1 教育課程や学習指導計画及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。 3 生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活性化させる。 4 規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	15名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図るとともに、進路希望を実現させるため学力向上を一層推進する必要がある。 学年、教科の優れた取組を成果につなげる組織的な枠組みが必要である。 保護者と連携して、家庭学習の習慣を確立させ、家庭学習時間を増やす必要がある。 	授業力向上に向けた組織的な取組により、生徒の学ぶ意欲と学力を向上させる。	① 考査前学習を促す生徒アンケートを実施する。 ② 各教科が小テスト、宿題等を課す量を増やす。 ③ 進路模試の計画的な実施及び結果分析、フィードバックを行う。 ④ 読書活動の活発化と図書館の有効利用を進める。 ⑤ 授業力向上のための公開研究授業を実施する。	①② 平日及び定期考査前の学習時間が増加したか。 ③ 分析結果を有効活用できたか。 ④ 本の貸出数と図書館利用が増加したか。 ⑤ 実施前後で参加者の意識が変化したか。	○ 学習意欲の向上としては夏季補習参加希望者が延べ81人に増えた。 ① 1年生対象に1学期期末考査前アンケートを実施し、学習時間及びスマホ依存度等をチェックした。 ② ②学校評価アンケート(生徒)で、生徒の家庭学習時間が増加した。 ③ 進路模試を昨年度より1回多く実施したが、分析結果を有効活用できていない。 ④ 本の貸出数は1410冊で減少傾向にある。 ⑤ 授業相互観察を延べ148人実施した。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習時間の絶対量の確保が課題である。 生徒の学習習慣の定着と学習時間増加の組織的な取組が必要である。 教員の更なる授業力向上を図るため、今年度実施した授業相互観察を継続し、更に校外向けの公開研究授業に取り組む。 引き続き、新教育課程の点検・検証を行う。
		新教育課程案の点検及び検証を行う。	① 教育課程小委員会による細部点検を行う。 ② 教育課程委員会による全体検証を行う。	①② 2学科1コースの特色を生かした教育課程編成となっているか。	○ 教育課程小委員会で点検及び検証を行い、微調整を行った。 ①② 進路希望に応じた授業を選択できるよう引き続き検証が必要である。	B	
2	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導は3年間を見通して計画的に行われているが、それぞれの希望進路に応じた指導、特に進学希望者に対する指導を一層充実させる必要がある。 進路実現のワンクッションを目指すべく、各種検定試験の補習を組織的に拡充していく必要がある。 	系統的なキャリア教育を推進するとともに、進路実現に必要な学力を向上させる。	① 系統的・組織的な進路指導を継続する。 ② 外部講師を活用する。 ③ 教務部と進路指導部が連携して、進学補習体制を構築する。 ④ 進路決定後の指導を強化する。	①② 生徒の進路希望が実現できたか。 ③ 補習参加者数が増加したか。 ④ 継続的な指導ができたか。	○ 系統的・組織的な進路指導により就職内定率は10年連続100%の見込みである。 ① 進学希望者に新しい学力向上の取組が必要 ②③ 夏季休業中の進学補習は、昨年度より6講座多い15講座開講した。 ④ 進路決定者にガイダンス丁寧な指導を実施	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者に対する進路指導は充実している。進学希望者に対する進路指導の工夫改善が急務である。 特に、大学進学希望者に対しては入学時から進学補習や模擬試験の実施が不可欠である。
		進路実現に必要な各種検定試験や高度な資格取得を奨励する。	① 大学入試改革等を踏まえ、各教科が関係する検定試験受験者増加に努める。 ② ①に並行して、合格のための補習体制を構築する。	① 各種検定試験受験者が増加したか。 ② 各種検定試験合格者が増加したか。	○ 進学希望者中心に声かけを行い各種検定の受験者及び合格者が増加した。 ①② 検定受験者は英検15名、漢検52名と増加し、合格者も微増した。	A	
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を通じて、リーダーの育成と「生徒自ら考え、行動する力」をより一層養う必要がある。 部活動は年々活発になってきている。部活動実績の向上と活性化を一層推進する必要がある。 	生徒会活動及び学校行事の充実と音楽科の活動をより一層推進する。	① 生徒主体の生徒会運営を支援し、企画力、実行力を高める。 ② 音楽科各種演奏会の内容の充実を図るとともに、記者発表等を利用し、積極的に広報する。	①② 各学校行事(演奏会)の充実が図られたか。 ③ 松華祭の来場者が増加したか。	○ 各行事とも来場者数は減少したが、内容は充実が図られた。 ① 松華祭の来場者数は1255人で微減した。 ② 音楽科定期演奏会の来場者数は会場の関係で500名であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動部を中心に活発に生徒会活動が行われているが、部活動加入率が低下している。 特に、運動部の退部率が高くなっており、部活動のガイドラインに沿って活動内容の工夫が必要である。
		部活動のレベルアップを図り、部活動実績の向上をより一層推進する。	① 部活動の意義を学校全体で共有し、支援体制を整える。 ② 適切なガイドラインを検討する。	① 生徒の部活動加入率が向上したか。 ② 適切なガイドラインができたか。	○ 部活動加入率81%と減少(-4P)した。 ① 吹奏楽部が西関東大会金賞、合唱部が県大会金賞、女子バレー部は県大会ベスト16、弓道部県大会個人第3位、男女テニス部・男女バドミントン部が県大会出場、書道部・美術部が県展覧会等で入選・入賞した。	B	
4	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携はよく図られている。地域連携や特色ある教育活動を積極的にアピールし、広報活動の工夫を進め、特色ある教育活動を積極的に地域や校外に発信し、安定した生徒募集につなげていく。 全職員の共通理解に基づく組織的かつ統一した指導を徹底し、自律や規律を重んじる態度を身につけさせるとともに、交通安全指導を一層充実させる必要がある。 	松伏町関係機関や地域・保護者との連携を一層強化し、松伏高校の魅力を積極的に発信することで生徒募集につなげる。	① 松伏町当局やロータリークラブとの連携事業を充実させる。 ② 生徒会を中心に小中学校との交流を活発にする。 ③ 学校行事、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の教育活動を積極的に広報する。 ④ 学校説明会の企画内容を更に工夫する。	①② ボランティア活動や地域交流が活発に行われたか。 ③④ 学校説明会の参加者数及び入学志願者数が増加したか。	○ 松伏町当局やロータリークラブとの連携は十分図られている。 ① 小中学校学習ボランティア、ミニまつぶし、エコキャップ回収、清掃ボランティアは活発である。 ② 女子バレー部とサッカー部が地域小学校に出向き小高交流活動を述べ3日行った。 ③④ ホームページや演奏会等で昨年度以上に教育活動の広報及び発信を行った。 ④ 12月の進路希望調査では普通科1.06倍、情報ビジネス1.2倍、音楽科0.85倍	A	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に積極的に参加する生徒が増えているが、偏りがある。 多くの生徒が参加できる仕組みを作っていく。 依頼演奏に対する音楽科や吹奏楽部、合唱部等の負担が大きいため、部活動のガイドラインを踏まえてある程度精査が必要である。 生徒募集に関しては時代のニーズに合わせた情報発信方法の工夫を行う。
		挨拶・遅刻・服装等規範意識の醸成と生徒の命を守る交通安全指導を充実させる。	① 計画的に整容指導を実施する。 ② 全職員が、その場で改善させる「その場指導」を徹底する。 ③ 登校指導・昼の巡回指導・下校指導を組織的に行う。 ④ 効果的な交通安全教室を計画・実施する。	①② 身だしなみの状況がより向上したか。 ③ 生徒指導件数が減少したか。 ④ 遅刻者数が減少したか。 ④ 交通事故件数が減少したか。	○ 教員の「その場指導」により生徒の挨拶や規範意識は向上している。 ①② 整容指導や「その場指導」により身だしなみの大きな崩れはない。 ③ 携帯電話の指導を徹底したため、生徒指導人数は22人(+15)と大幅に増加した。 ④ 交通事故件数は14件(+1)、不審者被害1件であったが、後半減少傾向にある。	A	

学校関係者評価
実施日 平成31年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの補習講座増は、教員の熱意の現れだと思う。 教員相互の授業観察は素晴らしい取組である。教師の授業力向上が学力向上につながる。今後は、更に発展させ、中学校の授業を高校の先生方にも見ていただきたい。中高で連携し中学校から高校の学習ギャップを減らしたい。 家庭学習の大切さを強く感じる。家庭学習定着のための取組を教科や学年が連携して実践してほしい。 「アクティブ・ラーニング」を授業にポイントで取り入れている教員が多いことは大変良い。今後も教員相互に良い点を取り入れてチャレンジしてほしい。 就職者も進学者も、高校生の中に基礎学力をつけることは大切である。現在は、進学しやすい反面、目的意識がないと進学後も学校は続かない。 学力向上を学校の目標に掲げることは大変良い。是非今後も継続していただきたい。 介護系に就職がないのが残念。昨年の松伏高校の卒業生は頑張っている。様々な職種について学び立派に社会に貢献してほしい。 生徒は目的を持って入学してくる。安易にアルバイト等に時間を費やさず、今しかできない充実した学校生活(部活動や学校行事、進路活動)を頑張ってもらいたい。部活動は、退部者を減らし多くの生徒が3年間活動できるよう取り組んでいく必要がある。 定数減により全校生徒数が減少する中で学校行事や松伏高校独自の取組が縮小することが無いように工夫や改善が必要である。 大変地域に密着した県立学校である。地域のイベント等にボランティアで参加する生徒が数多くいることは素晴らしい。昨年のミニまつぶしは高校生がたくさん参加してとても良かった。 女子バレー部とサッカー部の小学校との交流活動は、新しい取組として素晴らしい。 音楽科を中心に、合唱部や吹奏楽部の依頼演奏は大変評判が良い。活動時間等の制約があり大変だと思うが、町の誇りとなっている。今後は是非お願いしたい。 インターネットやSNS、スマートフォンの使用に関する指導上の問題があると聞き、スマートフォンの光と影が良く見えた。使う者の心次第なので心を育てなければならない。